

第 8 期

相模原市中央区区民会議 活動報告書

（任期：令和 6 年 7 月 3 0 日～令和 8 年 7 月 2 9 日）



報告にあたって

第5、6、7期に続いて、第8期も会長を務めさせて頂きました。第5期では中央区基本計画を作成し、第6、7期ではこの中央区基本計画を順調に着実に進めていくため、市役所、企業、団体へ提案や申し入れをしていく「もの言う区民会議」を実現していきました。第8期は、これを踏まえ総点検していく期でありました。

手法としては、今回もワークショップの手法を活用しました。中央区基本計画に掲げた6つの取組目標について、3つのグループで、取組状況の振り返りを行いました。振り返りでは、「取組状況検証シート」を用い、「取組目標」に対して、「基本計画」「区民会議からの提言」を記載し、「事例及び意見」として、区民の取組事例を調べ上げ紹介し、意見をまとめ、総合的に「検証結果」で今後についてもまとめました。また、ちょうど相模原市DX推進計画を策定する期間中であったため、可能なところは「DXの視点における意見」を案出し、計画策定に協力しました。

この総点検を通して、取組目標に対して、行政が行っている施策もありますが、区民の力で実施しているものも多くあり、また、自治会をはじめ、協議会、PTA、商工会議所、各種団体など、その地区に関連する実に様々な団体の力によって、取組目標が実現されていることに、改めて感動いたしました。また、ある特定の地区で実施し、成功している事例が数々ありました。この中には臨時的な補助金を活用し実施したが、継続的に実施する方が良いと考えられるもの、中央区全域に広げたいもの、ひいては相模原市全域に広げると良いものもありました。具体例としては、代表的なものだけでも、訪問医療の駐車エリアの確保や、昔遊びの伝承、放課後の集いの支援、百歳体操やボッチャの普及、スーパーマーケットの移動販売、ゴミ置き場の多言語案内、QRコードを使った地域ナビなどが挙げられています。一方、様々なところで、情報発信が不十分な点が指摘されています。昨今、様々な国の外国人の方も増加しています。地域特性でばらつきが大きいものの、多文化共生を強く意識していくことも必要と感じます。

人口減少フェーズに入ったと言われる相模原市ですが、まだまだ、新しい働き方、新しいビジネス、新しい教育が生まれてきています。「多様性を大切に」して、ピンチをチャンスにする、相模原市中央区でありたいと思います。

最後に、委員をはじめ、相模原市中央区役所区政策課、御協力頂いた皆様に、感謝して御礼申し上げます。

相模原市中央区区民会議 会長 飯島泰裕
(青山学院大学教授)

目 次

1	区民会議	・ ・ ・ ・ ・	1
2	これまでの取組	・ ・ ・ ・ ・	1
3	第8期の取組	・ ・ ・ ・ ・	2
4	中央区基本計画の取組状況の検証のまとめ	・ ・ ・ ・ ・	3
	(1) 中央区の目指す姿・取組目標Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	3
	(2) 中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	8
	(3) 中央区の目指す姿・取組目標Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	1 6
	(4) 中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ	・ ・ ・ ・ ・	2 1
	(5) 中央区の目指す姿・取組目標Ⅴ	・ ・ ・ ・ ・	3 3
	(6) 中央区の目指す姿・取組目標Ⅵ	・ ・ ・ ・ ・	3 8
5	審議経過等（概要）	・ ・ ・ ・ ・	4 4
6	第8期区民会議委員名簿	・ ・ ・ ・ ・	4 5

参考資料（別紙）

○第8期第3回区民会議 資料

中央区基本計画進行管理表【令和2年度～令和5年度】

○第8期第3回区民会議 資料

中央区基本計画の進行管理等のための区民アンケート集計結果

1 区民会議

区民会議は、区の課題やまちづくりの方向性について協議を行う場として設置する、市の執行機関の附属機関（※1）です。人数は25人以内とし、区内のまちづくり会議から推薦された方、区内の公益的活動を行う団体から推薦された方、区内の住民（公募により選任）、学識経験のある方から構成しています。

※1 附属機関

附属機関は法律や条例に基づき設置されるもので、市民や専門家の意見を反映させるため、審査や調査を行う機関のこと。

2 これまでの取組

第1期（平成22年7月30日～平成24年7月29日）

区の将来像や協働によるまちづくりの指針となる「区ビジョン」（※2）の策定について市長から諮問を受け、中央区の特色や現況、課題を踏まえ、区民と行政が共に目指す将来像や、まちづくりの目標を審議し、答申を行いました。

※2 区ビジョン

区民と協働でまちづくりを進めるための指針として、「新・相模原市総合計画」を地域の視点で捉え直し、区の目指す将来像を明らかにしたうえで、その実現に向けて区民と行政がともに進めるまちづくりの基本的な方向性を示したものの。

第2期（平成24年7月30日～平成26年7月29日）

第2期では、区ビジョンに定めた「地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出する」という基本方針に焦点を当て、中央区らしい地域資源を再発見するとともに、それらを「つなぐ」取組について議論し、中央区らしい魅力を創造する提案をとりまとめました。

第3期（平成26年7月30日～平成28年7月29日）

第3期では、より幅広く区民と意見交換を行う「中央区拡大区民会議」を開催し、「区民や地域の連携・協力による魅力あるまちづくりに向けて」、「若い世代の地域活動、まちづくりへの参加について」をテーマに、区内の高校生・大学生・子育て世代の区民が参加し、区民が主体となり地域資源を「つなぐ」ために必要な方策や、若い世代の地域参加について議論し、報告書としてまとめました。

第4期（平成28年7月30日～平成30年7月29日）

第4期では、令和2年度から計画期間が始まる中央区基本計画の策定に向け、区ビジョンに掲げた行政の取組の実施状況の確認と区民の取組について検証し、報告書としてまとめました。

第5期（平成30年7月30日～令和2年7月29日）

第5期では、中央区基本計画の策定についての諮問を受け、中央区の現状と課題を踏まえつつ、将来のポテンシャルと「多様性」を活かした中央区の目指す姿を実現するための取組について議論を重ね、最終的に計画の答申としてとりまとめました。

第6期（令和2年7月30日～令和4年7月29日）

第6期では、中央区基本計画に掲げた目指す姿・取組目標を実現するため、「発言する区民会議」として取組主体への働きかけ（＝重点行動）を行うこととし、中央区基本計画で定めている中でも早期に着手していくべき重点的な取組と、取組に対する重点行動を決定しました。

第7期（令和4年7月30日～令和6年7月29日）

第7期では、中央区基本計画に掲げた目指す姿・取組目標を実現するため、第6期の取組を引き継ぎ、第6期で決定した6つの重点行動について、具体的な取組内容・取組主体の検討を行い、「発言する区民会議」として、相模原市長等に対して提言を行いました。

3 第8期の取組（令和6年7月30日～令和8年7月29日）

（1）中央区基本計画の取組状況の検証について

令和2年度から令和9年度を計画期間としている現行の中央区基本計画について、計画に掲げた区民の取組の実施状況等について検証し、報告書としてまとめました。

（2）取組状況の検証方法について

中央区基本計画に掲げた6つの取組目標について、3つのグループに分け、取組状況の振り返りを行いました。振り返りにあたっては、次頁以降の「区民の取組状況検証シート」を活用し、地域や団体における取組等について議論を重ねました。

4 中央区基本計画の取組状況の検証のまとめ

中央区の目指す姿・取組目標Ⅰ

「健やかに育ち、共に学び、共に高め合っている」

○取組の方向Ⅰ－１ 子どもが伸び伸びと成長できるよう取り組みます

○取組の方向Ⅰ－２ 誰もが学びを楽しめるよう取り組みます

＜取組状況＞

- ・ 地域や団体において、地域住民と交流する場として、子育てサロンをはじめとした様々な取組を行っており、地域住民が主体となって安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが進んでいる。一方で共働き世帯の参加促進や情報が必要な方への効果的な情報発信について、検討が必要である。
- ・ 地域で地域住民による子どもの見守り活動を行っているほか、勉強会や様々なイベントなどを実施することで子どもの居場所、遊び場づくりを進めている。また、学生ボランティアの確保についても、近隣の大学との連携やポイント制度を設ける等の取組を進めており、子どもが健やかに育つことができる健全な育成環境の形成が図られている。一方、継続的なボランティアの確保に課題がある。
- ・ 学校と地域の連携による地域学校協働活動や、地域主体の勉強会など様々な事業を通して、子どもにとって安全・安心で質の高い教育が受けられる環境づくりが進められている。今後も教育環境を充実させるため、学校で教えない分野を地域教育として教えていくことや、参加者を増やすための取組を進めることが必要である。
- ・ 地域や団体において、未就学児の親子への読み聞かせや若い世代からの意見聴取の取組を進めているほか、成人学級等により高齢者が参加できる活動や研修を実施しており、様々な世代の区民が学び、その成果をまちづくりにつなげるための取組が行われている。一方で、子育て世代への学びの機会提供が少ないことが課題である。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅰ

健やかに育ち、共に学び、共に高め合っている

■取組の方向Ⅰ-1 子どもが伸び伸びと成長できるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（子育て・教育分野）

①子育て支援②子どもの健全な育成環境の充実③教育環境の充実

基本計画	区 民 の 取 組
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	○地域住民と交流し、相談することで子育てに対する不安を解消し、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを進めます。 1 包括連携協定を締結している大学等に対し、学生ボランティアの働きかけを行うとともに、学生ボランティアが継続的に活動できる受入体制を構築する。 2 ボランティアを始めたいと考えている人へのサポートを更に充実する。 3 既存団体が抱える個々の課題を積極的に聴取し、支援体制を拡充する。 4 「子どもの居場所づくり」に関する情報や市の支援・取組について、情報発信を更に推進する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 横山地区では、幼保連携型認定こども園等の施設に声掛けを行い、今年の秋に子ども祭りを開催した。 ・ 光が丘地区では、今年の夏から未就学児や小学生を対象にフラダンス企画を行うなど、様々な取組を行っている。 ・ 園庭開放や子育てサロンを各園で行っている。毎年11月には各保育園や認定こども園が集い開催する「さがみはらんど」を実施している。 ・ PTA ではコミュニティスクールの勉強会を開催し、制度の周知をしている。 ・ 婦人会で未就学児の親子を対象とした読み聞かせなどを毎年実施している。 ・ 田名地区では公民館において、子ども食堂「みんなよっといで！たな食堂」が行われている。 【意見等】 ・ 企画のチラシを学校等に直接配布し情報発信をしているが、配布を断られてしまうこともあるため、どのように情報発信をしていくかが課題である。 ・ 企画を実施しても参加してくれる親子の数が年々減っており、共働き世帯が多い近年は、基本平日に開催している企画を土日開催に変えていく必要があるのではないか。 【DXの視点における意見等】 ・ 各地域や団体で、交流を行いながら子育てできる環境を作るための様々な取組が実施されており、DXの視点からは情報を必要としている人に効果的に発信していくことが求められる。
検証結果	地域や団体において、地域住民と交流する場として、子育てサロンをはじめとした様々な取組を行っており、地域住民が主体となって安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが進んでいる。一方で共働き世帯の参加促進や情報が必要な方への効果的な情報発信について、検討が必要である。

中央区の目指す姿・取組目標 I

健やかに育ち、共に学び、共に高め合っている

■取組の方向 I-1 子どもが伸び伸びと成長できるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（子育て・教育分野）

①子育て支援②子どもの健全な育成環境の充実③教育環境の充実

基本計画	区 民 の 取 組
	○子どもの居場所、遊び場づくりを進め、子どもが健やかに伸び伸びと育つことができる健全な育成環境をつくります。
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	1 包括連携協定を締結している大学等に対し、学生ボランティアの働きかけを行うとともに、学生ボランティアが継続的に活動できる受入体制を構築する。 2 ボランティアを始めたいと考えている人へのサポートを更に充実する。 3 既存団体が抱える個々の課題を積極的に聴取し、支援体制を拡充する。 4 「子どもの居場所づくり」に関する情報や市の支援・取組について、情報発信を更に推進する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 横山地区では、学校には登校できるが、クラスに馴染めない子どもを対象に勉強を教える取り組みを実施している。 ・ 星が丘地区では、授業の一環として、羽根つき・こま回しなどの昔の遊び体験を実施している。また、子どもの居場所づくりとして公民館を借りて工作や宿題を一緒に行う企画を開催している。 ・ 大野北地区では、淵野辺駅で桜美林大学や麻布大学の学生と協力し、マルシェを開催している。 ・ 光が丘地区では、青山学院大学のサッカー一部が地域のお祭りにボランティアとして参加している。 ・ 上溝地区では、月に一度、土曜日に子どもを対象とした駄菓子屋を開催している。地域の社会福祉協議会の構成員が主体となり、子どものお小遣いでも買える値段で売っている。上溝地区ではこうした拠点が増加している。 ・ 上溝地区では毎週木曜日に、子どもから大人まで皆で交流しながら楽しくご飯を食べることができる『溝でモーニング』という取組が行われているほか、高齢者向けのスマホサロンも行われている。 ・ 横山地区では、児童が作成した交通安全に関するポスターを登校ルートのような箇所に掲示することで、注意喚起を行っている。 ・ 学校にベーゴマ回しなどの昔の遊び体験を提案したが危ないと断られた事例があった。 ・ 田名地区では、地区内小学生から高校生を対象に「たなワン子どもボランティアポイント」制度を設け、地域活動への参加を促している。また、地区内小学校において、「ボッチャ」や「昔遊び」を通じた交流を行っている。 ・ 各地区で地域住民による子どもの見守り活動が行われている。 ・ 各学校の PTA で個々に自治会や開催している子どもの居場所・遊び場に関する事業に協力している事例や、公民館で開催している青少年事業へ PTA として人員を派遣して協力をしている。 ・ 学生にボランティアをお願いした際に、定期的に人数等を確保し確実に活動に参加することは難しいとの意見があった。
検証結果	地域で地域住民による子どもの見守り活動を行っているほか、勉強会や様々なイベントなどを実施することで子どもの居場所、遊び場づくりを進めている。また、学生ボランティアの確保についても、近隣の大学との連携やポイント制度を設ける等の取組を進めており、子どもが健やかに育つことができる健全な育成環境の形成が図られている。一方、継続的なボランティアの確保に課題がある。

中央区の目指す姿・取組目標 I

健やかに育ち、共に学び、共に高め合っている

■取組の方向 I-1 子どもが伸び伸びと成長できるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（子育て・教育分野）

①子育て支援②子どもの健全な育成環境の充実③教育環境の充実

基本計画	区 民 の 取 組
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	○全ての子どもにとって、安全・安心で質の高い教育が受けられる環境づくりを進めます。 1 包括連携協定を締結している大学等に対し、学生ボランティアの働きかけを行うとともに、学生ボランティアが継続的に活動できる受入体制を構築する。 2 ボランティアを始めたいと考えている人へのサポートを更に充実する。 3 既存団体が抱える個々の課題を積極的に聴取し、支援体制を拡充する。 4 「子どもの居場所づくり」に関する情報や市の支援・取組について、情報発信を更に推進する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 星が丘地区では、交通安全母の会が自転車の乗り方を子どもたちに教えている。また、青少年健全育成協議会が料理や工作、ランタン作りやサツマイモ堀りなどの6～7種類の企画を実施している。 ・ 田名地区では、地区内小学校からの要請により、民生委員児童委員による不登校ルーム対象児童への見守り・支援活動を行っている。 ・ 支援学級の取り組みに対して PTA として協力をしている学校がある。 ・ 横山地区では、学校には登校できるが、クラスに馴染めない子どもを対象に勉強を教える取り組みを実施している【再掲】 ・ 横山地区では、地域の子どもたちの放課後の楽しみを作るため、そして地域の担い手不足の解消に向けた取組として、令和8年1月に地域学校協働本部『わくわく横山』という団体を設立した。 【意見等】 ・ 学校で教えない分野を地域教育として子どもたちに教えていくのが大切だと思う。 ・ 教育環境の充実のため、様々な企画を開催するとしても参加する人が少ないので人数を集客していくことが課題。 【D X の視点における意見等】 ・ 情報発信の主流となる SNS はあくまでも情報を得たい側が情報を取りに来ないと情報を得られない。そのため、チラシ等に QR コードをつけることで、情報が欲しい人に情報発信できる。
検証結果	学校と地域の連携による地域学校協働活動や、地域主体の勉強会など様々な事業を通して、子どもにとって安全・安心で質の高い教育が受けられる環境づくりが進められている。今後も教育環境を充実させるため、学校で教えない分野を地域教育として教えていくことや、参加者を増やすための取組を進める必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅰ

健やかに育ち、共に学び、共に高め合っている

■取組の方向Ⅰ-2 誰もが学びを楽しめるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（生涯学習・社会教育分野）

①生涯学習、社会教育の支援

	区 民 の 取 組
基本計画	○様々な世代の区民が「いつでも」「どこでも」「誰でも」学ぶことができ、学びを通じて得た成果をまちづくりにつなげることで、更に学びが深まるよう支援します。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 横山地区では、成人学級等の高齢者が参加できる活動があり、防災や交通安全等のテーマを決めて話し合いや日帰りの視察研修なども実施している。 ・ 保育園の活動として、園外保育の一環で園児を図書館に連れて行き、本の貸し借りや紙芝居の読み聞かせを行い、社会性の学びに繋げている。 ・ 光が丘地区では、まちづくり懇談会にて中学生を参加者として招き、若い世代の意見などを取り入れている。 ・ 婦人会で未就学児の親子を対象とした読み聞かせなどを毎年実施している。 【再掲】 ・ 子育て世代で構成されている PTA では、支援教育として各地域のブロックで防災の講演会を開催したり、地域ごとの問題意識を反映させた形で企画や勉強会を開催したりしている。 ・ PTA ではブロック単位で保護者や地域の市民を対象とした家庭教育事業を年 1 回実施し、そこで幅広い世代に対する学びの機会を提供している。 【意見等】 ・ 課題として PTA にて子育て世代向けの企画を行っているものの、全体的に子育て世代への学びの機会提供が少ないため、開催する曜日を休日に変更するなどの措置が必要である。
検証結果	地域や団体において、未就学児の親子への読み聞かせや若い世代からの意見聴取の取組を進めているほか、成人学級等により高齢者が参加できる活動や研修を実施しており、様々な世代の区民が学び、その成果をまちづくりにつなげるための取組が行われている。一方で、子育て世代への学びの機会提供が少ないことが課題である。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

「自分らしく、いきいきと暮らしている」

○取組の方向Ⅱ－１ 全ての人がいきいきと暮らせるよう取り組みます

○取組の方向Ⅱ－２ 多様な人々が自分らしく活躍できるよう取り組みます

○取組の方向Ⅱ－３ 健康長寿に取り組みます

<取組状況>

- ・ 地域でのニュースポーツ大会等における住民交流の場を通じて、人と人の支え合いのネットワークを充実するための取組が進められているが、一方で、参加が自治会単位ではなく、有志のみの集まりとなってしまうものが多い状況にある。
- ・ 地域において、生きがいつくりやコミュニティ形成事業など様々な取組が行われており、退職後の活動の場やひとり暮らし高齢者の集いの場づくりのほか、高齢者が社会に参加し活躍するための取組が進められている。
- ・ 地域や団体において人権啓発や男女共同参画に関する取組が行われており、誰もが個性と能力を十分に発揮することができ、地域で女性が活躍できるための環境の充実に向けた取組が進められている。一方で、看護や保育などの現場では、性別による利用者への配慮等が課題となっている。
- ・ 地域において、医療・福祉従事者の方が訪問介護をする際の駐車スペース等の確保に関する取組や、民間事業者による高齢者施設等への移動販売などが行われており、誰もが快適な日常生活を送ることができるための福祉のまちづくりが進められている。
- ・ 地域のイベント等において、外国人の方と交流する場の創出や外国の文化を知るための取組が行われているほか、日常生活における多言語対応やスマートフォンの翻訳アプリの活用などが行われており、異なる文化や習慣を理解し、お互いを地域の仲間として尊重し合うための取組が進められている。
- ・ 地域において、百歳体操をはじめ、ウォーキングやスポーツを通じた健康増進の取組が行われており、健康に対する意識を高め、地域の健康増進活動の活性化に向けた取組が進められている。
- ・ 地域において、医療・福祉従事者の方が訪問介護をする際の駐車スペース等の確保に関する取組などを行っており、区民が安心して暮らせるまちづくりが進められている。一方で、自分は大丈夫という意識から健康診断を受診しないケースが多いことが課題となっている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

自分らしく、いきいきと暮らしている

■取組の方向Ⅱ-1 全ての人がいきいきと暮らせるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（福祉、高齢者、貧困分野）

①地域ネットワークの充実②高齢者の社会参加支援

	区 民 の 取 組
基本計画	○人と人の支え合いのネットワークを充実させ、様々な悩みや不安に対して包括的に支援できる、誰もが暮らしやすいと感じるまちづくりに取り組みます。
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	1 単位自治会の掲示板に周知チラシを掲示する。 2 自治会加入世帯に周知チラシを全戸配布又は回覧する。 3 地域情報紙に周知チラシ同様の内容を掲載する。 4 自治会未加入のマンション掲示板にも、できる限り周知チラシを掲示する。 5 市内にある大学等の学生にも、できる限り周知する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 社会福祉協議会中央区連絡会では、パラリンピック競技にもなっている「ボッチャ」を中央区の9つの地域が集まって開催した。 ・ 星が丘地区では、公民館のスポーツ委員会が主体となって、「ボッチャ」や「モルック」を始めとしたニュースポーツ大会を開催している。 ・ 上溝地区にある保育園では、子育て通信を年に3～4回発行しており、子育てに関する情報やイベント情報を載せている。 ・ 田名地区では、住民交流の場である「和い輪い田名」において、サロン活動のほか、夏休み期間を利用した子ども向けの企画、高校生による高齢者向けスマホ教室などを実施している。 【意見等】 ・ スポーツ大会等を通じて地域ネットワークの構築を試みるも、最近では自治会単位などではなく、有志のみの集まりに切り替わっていることが多いのが現状であり、課題となっている。
検証結果	地域でのニュースポーツ大会等における住民交流の場を通じて、人と人の支え合いのネットワークを充実するための取組が進められているが、一方で、参加が自治会単位ではなく、有志のみの集まりとなってしまうものが多い状況にある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

自分らしく、いきいきと暮らしている

■取組の方向Ⅱ-1 全ての人がいきいきと暮らせるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（福祉、高齢者、貧困分野）

①地域ネットワークの充実②高齢者の社会参加支援

	区 民 の 取 組
基本計画	○退職後の活動の場やひとり暮らし高齢者の集いの場づくりに取り組むとともに、高齢者が社会に参加し活躍することで、笑顔があふれるまちづくりを進めます。
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	1 単位自治会の掲示板に周知チラシを掲示する。 2 自治会加入世帯に周知チラシを全戸配布又は回覧する。 3 地域情報紙に周知チラシ同様の内容を掲載する。 4 自治会未加入のマンション掲示板にも、できる限り周知チラシを掲示する。 5 市内にある大学等の学生にも、できる限り周知する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 社会福祉協議会中央区連絡会では、百歳体操やボッチャ、輪投げなど、コミュニティ形成事業を定期的に行っている。 ・ 星が丘地区では、全自治会の集会所で百歳体操を開催し、星が丘・横山・千代田地区にて高齢者を対象に月に一度、「憩いの場」を設けている。 ・ 上溝地区では骨盤教室、絵手紙教室、スマホサロン、演芸会、川柳教室等を毎月実施している。 ・ 田名地区では各自治会においてサロン活動が活発である。 【意見等】 ・ 高齢者の社会参加支援には若い世代だけに担わせるのではなく次の高齢者になる世代が地域社会の参画を行い、課題認識を持つ必要がある。
検証結果	地域において、生きがいつくりやコミュニティ形成事業など様々な取組が行われており、退職後の活動の場やひとり暮らし高齢者の集いの場づくりのほか、高齢者が社会に参加し活躍するための取組が進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

自分らしく、いきいきと暮らしている

■取組の方向Ⅱ-2 多様な人々が自分らしく活躍できるよう取り組みます 【重点的な取り組み】（人権・男女、障害者、国際化分野）

- ①人権の尊重と男女共同参画社会の実現 ②バリアフリー環境の充実
③多文化共生の推進

	区 民 の 取 組
基本計画	○誰もが個性と能力を十分に発揮することができるとともに、地域で女性が活躍できる環境の充実に取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 特定非営利活動法人男女共同参画さがみはらでは、人権すごろくや子育て相談の取り組みを実施している。また、2月には第23回サーラまつりを開催し、「仕事と生活」をテーマに、男女が共に仕事と生活を両立できる環境づくりについて考える取組を実施した。 ・ 田名地区では、地域包括支援センター主催で介護予防教室の一環として「男の料理教室」を開催した。 ・ PTAにおけるブロック単位では、保護者や地域の市民を対象にした家庭教育事業をテーマとして発達障害やLGBTQといったテーマを取り上げるブロックもある。 【意見等】 ・ 男女共同参画ということで男女平等に就労すべきであるが、看護師や保育士などの現場では、男女比に偏りが発生している状況がある。また、相手方を考慮し、男性もしくは女性が対応しなければならない場面もある。
検証結果	地域や団体において人権啓発や男女共同参画に関する取組が行われており、誰もが個性と能力を十分に発揮することができ、地域で女性が活躍できるための環境の充実に向けた取組が進められている。一方で、看護や保育などの現場では、性別による利用者への配慮等が課題となっている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

自分らしく、いきいきと暮らしている

■取組の方向Ⅱ-2 多様な人々が自分らしく活躍できるよう取り組みます
【重点的な取り組み】（人権・男女、障害者、国際化分野）

- ①人権の尊重と男女共同参画社会の実現 ②バリアフリー環境の充実
③多文化共生の推進

	区 民 の 取 組
基本計画	○誰もがいきいきと暮らせる、バリアフリー環境が充実した福祉のまちづくりに取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 - 横山地区では、訪問介護時の駐車場がない課題について、日中使用されていない団地の駐車場や個人住宅の駐車場を無償で借りることで解消する取り組みを行った。また、星が丘地区でも、令和7年度に横山地区と同様に訪問介護時の駐車場対策を検討し、令和8年度より実施予定である。 2019年からイオンリテールが光が丘、田名、横山地区で移動販売を行っており、主に高齢者施設や住宅街、団地の広場などに来てもらっている。
検証結果	地域において、医療・福祉従事者の方が訪問介護をする際の駐車スペース等の確保に関する取組や、民間事業者による高齢者施設等への移動販売などが行われており、誰もが快適な日常生活を送ることができるための福祉のまちづくりが進められている。



全体会の様子①

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

自分らしく、いきいきと暮らしている

■取組の方向Ⅱ-2 多様な人々が自分らしく活躍できるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（人権・男女、障害者、国際化分野）

①人権の尊重と男女共同参画社会の実現②バリアフリー環境の充実

③多文化共生の推進

	区 民 の 取 組
基本計画	○異なる文化や習慣を理解し、お互いを地域の仲間として尊重し合うことで、外国人も地域づくりに参画するまちづくりに取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 星が丘地区では千代田に拠点がある団体を通じて外国籍の人に声をかけ、ふれあいフェスティバルで模擬店を出店してもらったり、防災訓練に参加してもらっている。 ・ 横山2丁目自治会では、ごみ置き場に多言語の案内を表記している。 ・ 保育園や認定こども園では、入所する児童の中でも多文化・外国籍の子どもが増えてきている。園のルールを説明したり、連絡ノートに記載したりするときには、スマホの翻訳アプリを使って対応している。 ・ 小山地区のふるさとまつりには、米軍基地の方がお手伝いに来てくれている。また、2月に行う「英語で遊ぼう」という企画では、米軍基地の方と地域の子どもたちがバレンタインのカードを作っており、異文化への理解を深める場を設けている。 ・ 商工会議所では人材不足に対応するために経営者向けの外国人活用セミナーを行っている。 ・ 鹿沼公園では、朝方に中国出身の方が太極拳を行っており、ラジオ体操をしている住民と交流を行うなど、身近な公園などにも交流を深める場がある。 【意見等】 ・ 多文化共生については、地域特性でばらつきが生じている。地域によっては、外国籍の人と接触する機会が少ないなど、差がある。 【DXの視点における意見等】 ・ インターネットで検索すると、地域のお祭りを英語で紹介しているページなどがあり、集客につながっている。
検証結果	地域のイベント等において、外国人の方と交流する場の創出や外国の文化を知るための取組が行われているほか、日常生活における多言語対応やスマートフォンの翻訳アプリの活用などが行われており、異なる文化や習慣を理解し、お互いを地域の仲間として尊重し合うための取組が進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

自分らしく、いきいきと暮らしている

■取組の方向Ⅱ-3 健康長寿に取り組めます

【重点的な取り組み】（健康、医療分野）

①健康増進活動の推進②安心できる医療体制の充実

	区 民 の 取 組
基本計画	○区民の健康に対する意識を高め、地域の健康増進活動を活性化し、長寿を楽しめるまちづくりに取り組めます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 星が丘地区では、百歳体操を主に健康増進活動を行っており、全自治会が実施している。ウォーキングの取組としては、自身で目標を立てて目標を達成できると景品がもらえる取り組みを2年近く実施している。 ・ 横山地区では、9月のアルツハイマー月間に、地域内の花植え事業を行った場所でウォークラリーのイベントを行った。また、コミュニティ形成事業の一環として、横山地区と下九沢地区の拠点で、ボッチャや輪投げ、百歳体操を継続して行っている。 ・ 田名地区では、サロンや公民館において、「百歳体操」などを実施している。また、「田名健康まつり」において、「ボッチャ」や「モルック」を通じた健康増進活動や地域包括支援センターによる健康チェックや認知症のスクリーニングテストが行われている。
検証結果	地域において、百歳体操をはじめ、ウォーキングやスポーツを通じた健康増進の取組が行われており、健康に対する意識を高め、地域の健康増進活動の活性化に向けた取組が進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅱ

自分らしく、いきいきと暮らしている

■取組の方向Ⅱ-3 健康長寿に取り組めます

【重点的な取り組み】（健康、医療分野）

①健康増進活動の推進②安心できる医療体制の充実

	区 民 の 取 組
基本計画	○自らの健康について日常的に相談できる「かかりつけ医」等を持ち、区民が安心して暮らせるまちづくりに取り組めます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 - 横山地区では、訪問介護時の駐車場がない課題について、日中使用されていない団地の駐車場や個人住宅の駐車場を無償で借りることで解消する取り組みを行った。また、星が丘地区でも、令和7年度に横山地区と同様に訪問介護時の駐車場対策を検討し、令和8年度より実施予定である【再掲】 【意見等】 - 健康診断受診が病気の早期発見に繋がるが、自分は大丈夫という意識から健康診断を受診しないケースが多いことが課題となっている。
検証結果	地域において、医療・福祉従事者の方が訪問介護をする際の駐車スペース等の確保に関する取組などを行っており、区民が安心して暮らせるまちづくりが進められている。一方で、自分は大丈夫という意識から健康診断を受診しないケースが多いことが課題となっている。



グループワーク（Aグループ）の様子

中央区の目指す姿・取組目標Ⅲ

「安全・安心をみんなで創っている」

○取組の方向Ⅲ－１ 一人ひとりが災害に備えるよう取り組みます

○取組の方向Ⅲ－２ 事故や犯罪ゼロを目標に取り組みます

<取組状況>

- ・ 河川の増水対応など地域特性を生かした防災訓練が地域で行われているほか、防災教育や講演会など防災意識を高める取組が行われており、地域防災力の向上が図られている。一方で、防災訓練の慢性化も課題となっていることから、防災 VR の活用など、実災害時に活かすための訓練や対策も必要である。
- ・ 地域において青色防犯パトロールや交通安全教育に取り組んでいるほか、地域特性に応じた交通安全対策を行っており、事故防止のための啓発活動も進められているが、いまだ自転車事故の割合が高く、改めて運転ルールやヘルメット着用についての周知・徹底が必要である。また、市のシェアサイクル事業においては、ヘルメットの常備も検討すべきである。
- ・ 防犯カメラの設置や青色防犯パトロール、また地域における防犯対策の情報共有により、特殊詐欺等の犯罪を未然に防ぐための取組が行われている。一方で犯罪も巧妙化しており、自治会などをはじめ身近に相談できる環境づくりを引き続き進めることが重要である。
- ・ 空き家に関する情報を地域から市に情報提供を行っているほか、空き家の適正管理について自治会でも主体的に取組を進めているが、中々解決しない案件もあるため、引き続き意識啓発や空き家などの利活用について地域と市で連携し、協働して取組を進める必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅲ

安全・安心をみんなで創っている

■取組の方向Ⅲ-1 一人ひとりが災害に備えるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（防災分野）

①地域防災力の向上

	区 民 の 取 組
基本計画	○大規模災害に備え、自助・共助の取組の重要性など区民の防災意識を高めるとともに、自主防災組織の活動に対する支援等により、地域防災力の向上を図ります。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 小山地区では災害に強いまちづくりを進めており、令和6年からは自主防災隊の取組の振り返りを行うとともに他自治会等の取組調査を実施し、地域の防災対策に対するあり方を検討している。また、自主防災隊を対象とした訓練に一般住民も参加し一緒に訓練ができるよう取組を進めている。 ・ 中央地区では、日ごろから近隣住民で情報交換などをしており、有事の際も声を掛け合える関係作りを行っている。 ・ 小山地区では令和8年度に実施する総合防災訓練の際に、向陽小学校避難所運営協議会とタイアップし、避難所立ち上げ訓練の一部として、居住スペースにテントを設置するなどの経験をしてもらうことを予定している。 ・ 千代田7丁目自治会では、大規模災害時の生活用水確保のため、令和7年度に自治会館の敷地に災害時用井戸を設置し、地域防災力の向上を図るとともに、積極的に周知することにより、自治会加入促進等につながるよう取組を進めている。 ・ 田名地区では、地域防災意識の向上と住民の迅速な安否確認を目的として、「黄色い小旗」による安否確認訓練を実施している。また、台風等の豪雨により城山ダムの緊急放流が実施された場合を想定し、水郷田名地域3自治会を対象とした風水害対応（城山ダム緊急放流情報伝達）訓練を実施している。 ・ PTAの委員会で防災教育を取り上げて防災マイスターや消防団等の防災に関わる方々の講演会等を実施している。 【意見等】 ・ 災害弱者の個人情報をごどのように収集するかが課題である。 ・ 自治会によって、防災訓練の実施頻度等にばらつきが大きい。 ・ 自治会の防災訓練は慢性化しており、実際の災害時に活かすことができるかが課題である。 【DXの視点における意見等】 ・ 防災VRを活用した疑似体験訓練をすることで、災害を自分ごとと感じ、防災意識の向上等につなげることができる。
検証結果	河川の増水対応など地域特性を生かした防災訓練が地域で行われているほか、防災教育や講演会など防災意識を高める取組が行われており、地域防災力の向上が図られている。一方で、防災訓練の慢性化も課題となっていることから、防災VRの活用など、実災害時に活かすための訓練や対策も必要である。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅲ

安全・安心をみんなで創っている

■取組の方向Ⅲ-2 事故や犯罪ゼロを目標に取り組みます

【重点的な取り組み】（交通安全、防犯、空き家分野）

①交通事故防止対策の推進②犯罪の未然防止③空き家の適正な対策

	区 民 の 取 組
基本計画	○交通ルールや事故防止のための具体的な対策の周知など区民の意識を高めるための啓発活動や、家庭や地域などでの交通安全教育の充実に取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 上溝地区では、横断歩道の前に「止まれ」と表示したシールを貼ったことで、抑止力を働かせることができた。 ・ 小山地区では、月に1回青色パトロールを実施し、年に2回、8月と12月に夜間パトロールを行っている。交通安全講習会についても随時行っている。 ・ 上溝地区では、地域の安全のために活動する「交通少年団」を立ち上げるための取組が行われている。 ・ 田名地区では、地区内小学校の新入学児童への啓発物品の配布による交通安全意識の啓発を行っている。また、各自治会において、チラシや啓発物品の配布によるキャンペーンを実施している。 ・ PTAの家庭教育事業では交通安全教室等のテーマで開催している。 ・ 単一地区の取組として、保育園の建物前道路の道幅が狭く危険な状況であったが、安全対策として電柱幕での注意表示を設置したところ、大型車両の進入を抑制することができた。 【意見等】 ・ スマホのながら運転が中々減少しない印象にある。実際に事故も発生しているため、効果的な対応策が必要である。 ・ 地域での取組も重要だが、警察と一緒に取組を進める必要がある。 ・ 自転車乗車時のヘルメット着用率がまだ高くないように思われる。市が実施した購入補助のような啓発の取組を継続的に実施する必要がある。 ・ 事故率だけではなく、ヘルメット着用の有無による事故の詳細データなどがわかれば、効果的な啓発につながる。 ・ 交通児童公園である鹿沼公園を大いに活用し啓発する必要がある。 ・ 市のシェアサイクル事業においては、ヘルメットの常備も検討すべきである。
検証結果	地域において青色防犯パトロールや交通安全教育に取り組んでいるほか、地域特性に応じた交通安全対策を行っており、事故防止のための啓発活動も進められているが、いまだ自転車事故の割合が高く、改めて運転ルールやヘルメット着用についての周知・徹底が必要である。また、市のシェアサイクル事業においては、ヘルメットの常備も検討すべきである。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅲ

安全・安心をみんなで創っている

■取組の方向Ⅲ-2 事故や犯罪ゼロを目標に取り組みます

【重点的な取り組み】（交通安全、防犯、空き家分野）

①交通事故防止対策の推進②犯罪の未然防止③空き家の適正な対策

	区 民 の 取 組
基本計画	○地域や警察と区役所との連携により、自転車の盗難や特殊詐欺等の犯罪を未然に防ぐための取組を行います。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 市補助金により各商店街で防犯カメラの設置及び更新などを行っている。 ・ 固定電話に詐欺防止対策機器を導入することで犯罪に対する抑止力になることから、地域で情報を共有している。 ・ 青色回転灯装備車両によるパトロールを実施している。 【意見等】 ・ 各商店街に設置している防犯カメラはコストの面など維持管理が難しく、いかに商店街から地域に、地域及び市民に移管していくかというのが課題である。 ・ 最近、比較的安価で購入できる防犯カメラもあるため、こうした情報を市から地域に提供するなど、各地区で導入する機会を作るよう周知してほしい。 ・ 特殊詐欺などが巧妙化しており、自治会なども含め近くにすぐに相談できる環境を地域で作ることが重要である。また、地域で情報を共有し犯罪の未然防止に繋げる必要がある。
検証結果	防犯カメラの設置や青色防犯パトロール、また地域における防犯対策の情報共有により、特殊詐欺等の犯罪を未然に防ぐための取組が行われている。一方で犯罪も巧妙化しており、自治会などをはじめ身近に相談できる環境づくりを引き続き進めることが重要である。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅲ

安全・安心をみんなで創っている

■取組の方向Ⅲ-2 事故や犯罪ゼロを目標に取り組みます

【重点的な取り組み】（交通安全、防犯、空き家分野）

①交通事故防止対策の推進②犯罪の未然防止③**空き家の適正な対策**

	区 民 の 取 組
基本計画	○空き家などの適正管理への関心を高めるための意識啓発とともに、空き家などの利活用について地域と連携し、協働して取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 空き家に関する情報を市に適宜提供している。 ・ 上溝地区では、空き家の敷地内から道路に木の枝が飛び出している危険な事例もあったが、自治会から地権者に申し入れを行うことで伐採に至ることができた。 【意見等】 ・ 空き家に関する問題は中々対応が進まない。行政で対応が難しければ、地域住民が自主的に安全のために行えることを考える必要がある。 ・ 市に提供した空き家に関する情報がうまく活用されるシステムになってほしい。
検証結果	空き家に関する情報を地域から市に情報提供を行っているほか、空き家の適正管理について自治会でも主体的に取組を進めているが、中々解決しない案件もあるため、引き続き意識啓発や空き家などの利活用について地域と市で連携し、協働して取組を進める必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

「魅力と活力にあふれ、にぎわっている」

○取組の方向Ⅳ－１ 人が集い、にぎわいがあふれるよう取り組みます

○取組の方向Ⅳ－２ 暮らしやすさが未来へつながるよう取り組みます

○取組の方向Ⅳ－３ 誰もが桜や JAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます

<取組状況>

- ・ 商工会議所と商店街が連携し様々なイベント等を実施しており、にぎわいあるまちづくりに取り組んでいる。一方で、商店街の加盟店がサービス系に多く移行し日常に必要な食料品を買えるお店が少なくなっていることや、商店街における街路灯の維持が難しくなっていることが課題であり、今まで商店街に依存していたものをどのように対応していくのか、方策として考えていく必要がある。
- ・ 市立博物館や JAXA 相模原キャンパス、上溝さくら公園など観光に資する施設や、道保川公園といった身近な自然環境などの地域資源を生かし、区の魅力を区内外へ発信するための取組が行われているが、特に魅力的なコンテンツについては積極的に情報発信をする必要がある。
- ・ 学校給食による地元食材の使用や、スーパーマーケットなどにおける市内生産者表示の取組などにより地産地消の推進が図られているほか、友好都市の農産物の販売なども行われ、区民が農業を身近に感じられるまちづくりが進められている。一方で、市内農園で児童などが芋掘りをする機会などが減り、農業や土に触れる機会が少なくなっている。
- ・ 相模総合補給廠の早期全面返還に向けて、市米軍基地返還促進等市民協議会が要請活動を行っているほか、米軍機による騒音の解消に向けた取組を進めている。
- ・ 相模原駅周辺地区におけるにぎわいの拠点づくりを進める上では、Zippar などの新しい交通手段の検討や、バスの自動運転の進展なども必要である。
- ・ ボランティアによる道路沿いの花植え等のアダプト活動が行われているほか、生活道路の改善要望や道路環境等について意見交換を行う場を設けている地区があるなど、道路環境の向上に向けた取組が進められている。

- ・ 小田急多摩線延伸に係る要望活動に取り組んでいるほか、小型バスを活用した移動支援の取組を行っている地区もあり、地域公共交通網の構築に向けた取組が進められている。一方で、運転手不足によるバス路線の撤退が進んでおり、地域の移動支援に向けた取組を引き続き検討する必要がある。
- ・ 公民館や学校などにおいて、音楽や芸能に関する事業が地域と連携して行われており、区民が文化芸術に親しんでいる。また、伝統芸能の継承に向けた取組、地域の歴史や魅力の発信などが進められており、魅力を感じ、誇りを持てるまちづくりが進められている。
- ・ ホームタウンチームの応援や、公民館事業として体育祭などのスポーツ大会の実施等を通じて、スポーツを気軽に楽しめる環境づくりや、スポーツを通じた人々の交流の場が創出されている。
- ・ 地域のイベント等において、外国人の方と交流する場の創出や外国の文化を知るための取組が行われているほか、日常生活における多言語対応やスマートフォンの翻訳アプリの活用などが行われており、異なる文化や習慣を理解し、お互いを地域の仲間として尊重し合うための取組が進められている。



グループワーク（Bグループ）の様子

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-1 人が集い、にぎわいがあふれるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（商業、観光、農業分野）

- ①商業振興によるにぎわいづくり ②観光資源などを活用した魅力の発信
③農業を身近に感じられるまちづくり

基本計画	区 民 の 取 組
	○地域性を生かした商店街などの活性化や地域との連携により、人が集まり、にぎわいあるまちづくりに取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 商工会議所では商店街と連携して様々なイベント等を実施している。 ・ 商店街の加盟店は、整体や塾などサービス系に多く移行している。 ・ 左利きの方をターゲットにした商品展開をする文房具屋や希少な職人向け道具を扱う店などがあり、ニッチな需要を生み出している事例もある。 【意見等】 ・ 商店街が減っていることに伴い、街路灯の維持が厳しくなっている状況にある。撤去に関する費用助成が必要と考えるが、中長期的に考えると自治会が所有する防犯灯への移行なども含めて検討する必要がある。 ・ 商店街で、日常に必要な食料品を買えるお店が少なくなっている。 ・ スーパーマーケットの撤退などが起きている。 【DXの視点における意見等】 ・ オンラインショッピングの割合が増えており、特に共働きの子育て世帯などは、身近な日用品などもオンラインで購入する方が多い傾向にある。
検証結果	商工会議所と商店街が連携し様々なイベント等を実施しており、にぎわいあるまちづくりに取り組んでいる。一方で、商店街の加盟店がサービス系に多く移行し日常に必要な食料品を買えるお店が少なくなっていることや、商店街における街路灯の維持が難しくなっていることが課題であり、こうした課題に今後どのように対応するのか、新しい方策として考えていく必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-1 人が集い、にぎわいがあふれるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（商業、観光、農業分野）

- ①商業振興によるにぎわいづくり
- ②観光資源などを活用した魅力の発信
- ③農業を身近に感じられるまちづくり

	区 民 の 取 組
基本計画	○観光に資する施設や身近な自然環境などの地域資源を活用し、圏央道をはじめとした交通環境の良さを含めた区の魅力を区内外へ情報発信します。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 上溝さくら公園では、全国的にも珍しい40種の桜を植栽しており、10月から翌年の5月まで、東日本大震災の復興を願って国の機関が新たに交配した桜（綾瀬はるか命名の桜）や、憲政の偉人がポトマックに日米親善で送った孫桜2種の植樹、また緑や黄色など様々な桜の開花が楽しめるほか、10月にはサンマまつりや、12月にはイルミネーション、3月には桜まつりを実施している。また、ホテルが鑑賞できる道保川公園や、神奈川県北部最大級の夏祭りである上溝夏まつりがある。 ・ 市立博物館はプラネタリウムがリニューアルとなり、ポケモンとのコラボ企画なども行っており人気である。 ・ 淵野辺駅前の商店街はJAXAとのコラボイベントなどを実施している。 【意見等】 ・ 市立博物館のプラネタリウムなど、魅力的なコンテンツは積極的に情報発信をする必要がある。
検証結果	市立博物館やJAXA相模原キャンパス、上溝さくら公園など観光に資する施設や、道保川公園といった身近な自然環境などの地域資源を生かし、区の魅力を区内外へ発信するための取組が行われているが、特に魅力的なコンテンツについては積極的に情報発信をする必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-1 人が集い、にぎわいがあふれるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（商業、観光、農業分野）

- ①商業振興によるにぎわいづくり②観光資源などを活用した魅力の発信
③農業を身近に感じられるまちづくり

	区 民 の 取 組
基本計画	○地産地消の推進等により都市農業の振興を図ることで、区民が農業を身近に感じられるまちづくりに取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ スーパーマーケットなどでは、市内生産者による野菜である旨を表記して販売しているコーナーなどを設けている。 ・ 学校給食などにおいても相模原産の食材が使用されている。 ・ 農業まつりや、市役所前などで友好都市の特産品などを販売している。 ・ 商工会議所では地産地消を推進しており、市内農家と、商工会議所の会員である三和やイオン、イトーヨーカドーなどをつなげるといった取組を農商連携の一環で行っている。 【意見等】 ・ 市内農園で児童などが芋掘りをする機会などが減り、農業や土に触れる機会が少なくなっている。
検証結果	学校給食による地元食材の使用や、スーパーマーケットなどにおける市内生産者表示の取組などにより地産地消の推進が図られているほか、友好都市の農産物の販売なども行われ、区民が農業を身近に感じられるまちづくりが進められている。一方で、市内農園で児童などが芋掘りをする機会などが減り、農業や土に触れる機会が少なくなっている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-2 暮らしやすさが未来へつながるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（基地返還、拠点形成、道路、交通分野）

- ①相模総合補給廠の早期返還②相模原駅周辺地区におけるにぎわいの拠点づくり
③道路環境の向上④地域公共交通網の構築

	区 民 の 取 組
基本計画	○区民と行政が一体となり、相模総合補給廠の早期全面返還及び米軍機による騒音の解消に向けて取り組みます。
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	・（自治会連合会）地域資源（青色パトロールカー及び社会福祉法人所有の車両等）を活用した移動支援について、活動経費の助成などを行う市の支援制度である「地域おでかけポート推進事業」などを活用した事業の検討を、相模原市自治会連合会から各地区自治会連合会及び単位自治会へ促す。 ・（市）相模原市から各地区自治会連合会及び単位自治会並びに各地区まちづくり会議等に対して、「地域おでかけサポート推進事業」や先行事例等の情報提供を更に推進する。また、移動支援の事業を実施する際の課題に対して、必要に応じて支援及び助言する機会を更に充実する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 10月に市米軍基地返還促進等市民協議会として、市長とともに外務省と防衛省に要請活動を行った。 ・ 騒音に関する正確なエビデンスを取るために、騒音計の一部移設なども含め検討を行っている。 【意見等】 ・ 米軍基地に関する問題は、すぐに解決する問題ではないが、要請活動は継続して実施することが重要である。
検証結果	相模総合補給廠の早期全面返還に向けて、市米軍基地返還促進等市民協議会が要請活動を行っているほか、米軍機による騒音の解消に向けた取組を進めている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-2 暮らしやすさが未来へつながるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（基地返還、拠点形成、道路、交通分野）

- ①相模総合補給廠の早期返還②相模原駅周辺地区におけるにぎわいの拠点づくり
③道路環境の向上④地域公共交通網の構築

	区 民 の 取 組
基本計画	○暫定的な活用も含めた相模総合補給廠一部返還地をはじめ、小田急多摩線の延伸や隣接する橋本地区へのリニア中央新幹線の駅設置予定を見据えたまちづくり等により、にぎわいの拠点づくりを進めます。
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	・（自治会連合会）地域資源（青色パトロールカー及び社会福祉法人所有の車両等）を活用した移動支援について、活動経費の助成などを行う市の支援制度である「地域おでかけポート推進事業」などを活用した事業の検討を、相模原市自治会連合会から各地区自治会連合会及び単位自治会へ促す。 ・（市）相模原市から各地区自治会連合会及び単位自治会並びに各地区まちづくり会議等に対して、「地域おでかけサポート推進事業」や先行事例等の情報提供を更に推進する。また、移動支援の事業を実施する際の課題に対して、必要に応じて支援及び助言する機会を更に充実する。
各地区の事例 及び意見	【意見等】 ・ 今後のまちづくりを考えるにあたって、Zippar¹（建設費が安価で工事期間も短期）など新しい交通手段の検討も必要である。 ・ 自動運転が進展すれば、最近のバスの運転手不足という課題にも対応できるように思う。
検証結果	相模原駅周辺地区におけるにぎわいの拠点づくりを進める上では、Zipparなどの新しい交通手段の検討や、バスの自動運転の進展なども必要である。

1 Zip Infrastructure 株式会社が開発を進める都市型自走式ロープウェー (<https://zip-infra.co.jp/>)

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-2 暮らしやすさが未来へつながるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（基地返還、拠点形成、道路、交通分野）

- ①相模総合補給廠の早期返還②相模原駅周辺地区におけるにぎわいの拠点づくり
③道路環境の向上④地域公共交通網の構築

基本計画	区 民 の 取 組
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	○自転車通行環境の整備や道路の拡幅整備、バリアフリー化の推進など、道路環境の向上に取り組みます。 ・（自治会連合会）地域資源（青色パトロールカー及び社会福祉法人所有の車両等）を活用した移動支援について、活動経費の助成などを行う市の支援制度である「地域おでかけポート推進事業」などを活用した事業の検討を、相模原市自治会連合会から各地区自治会連合会及び単位自治会へ促す。 ・（市）相模原市から各地区自治会連合会及び単位自治会並びに各地区まちづくり会議等に対して、「地域おでかけサポート推進事業」や先行事例等の情報提供を更に推進する。また、移動支援の事業を実施する際の課題に対して、必要に応じて支援及び助言する機会を更に充実する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 国道16号の路側帯付近に花壇が設置されており、ボランティア団体の方々が熱心に花の手入れをしている。 ・ 田名地区公共交通整備促進協議会において、各自治会に対して地区内道路の交通安全に係る要望等を調査し、結果を取りまとめて担当部署へ改善等を要望している。また、定期的に担当部署と地区内道路の環境等について意見交換を行っている。 【意見等】 ・ 宮上横山線が開通し利便性の向上が見込まれたが、実際はJR横浜線と交差する小原踏切で渋滞が悪化している。立体交差化を進めないと現実的な効果が出ないのではないかと思う。
検証結果	ボランティアによる道路沿いの花植え等のアダプト活動が行われているほか、生活道路の改善要望や道路環境等について意見交換を行う場を設けている地区があるなど、道路環境の向上に向けた取組が進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-2 暮らしやすさが未来へつながるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（基地返還、拠点形成、道路、交通分野）

- ①相模総合補給廠の早期返還②相模原駅周辺地区におけるにぎわいの拠点づくり
③道路環境の向上④地域公共交通網の構築

	区 民 の 取 組
基本計画	○小田急多摩線延伸の促進、コミュニティバスの維持・確保など、地域公共交通網の構築を利便性に配慮しながら進めます。
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	・（自治会連合会）地域資源（青色パトロールカー及び社会福祉法人所有の車両等）を活用した移動支援について、活動経費の助成などを行う市の支援制度である「地域おでかけポート推進事業」などを活用した事業の検討を、相模原市自治会連合会から各地区自治会連合会及び単位自治会へ促す。 ・（市）相模原市から各地区自治会連合会及び単位自治会並びに各地区まちづくり会議等に対して、「地域おでかけサポート推進事業」や先行事例等の情報提供を更に推進する。また、移動支援の事業を実施する際の課題に対して、必要に応じて支援及び助言する機会を更に充実する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 小山地区では、地域の取組として11月と12月に1日1便2系統で小型バスを利用した相模原駅までの移動支援の実証実験を行った。 ・ 小田急多摩線延伸について、行政への要望や署名、横断幕の設置などの活動を行っている。 【意見等】 ・ バス路線の撤退が進んでおり、高齢者の移動手段が厳しい状況である。市営バスなどの運行により現在の運賃を維持できるような仕組みにすれば、高齢者の免許返納にもつながるのではないかと思う。 ・ 地域の移動支援の取組にあたっての課題は運転手確保であり、自動運転などが進展すれば、運転手不足の解消や事故の低減にもつながると思う。 ・ バスで鉄道駅に向かう際の交通渋滞の解消を考えなければならない。
検証結果	小田急多摩線延伸に係る要望活動に取り組んでいるほか、小型バスを活用した移動支援の取組を行っている地区もあり、地域公共交通網の構築に向けた取組が進められている。一方で、運転手不足によるバス路線の撤退が進んでおり、地域の移動支援に向けた取組を引き続き検討する必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-3 誰もが桜や JAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（文化、スポーツ、国際化分野）

- ①文化が薫り、誇りを持てるまちづくり ②スポーツを楽しめる環境づくり
③多文化共生の推進

	区 民 の 取 組
基本計画	○区民一人ひとりが地域文化の担い手となり、地域文化の継承と発展・創造に取り組むことで、魅力を感じ、誇りを持てるまちづくりを進めます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 小山地区では、公民館で落語の講演が定期的に行われている。 ・ 中央地区では、小学校から高校生まで様々な世代の団体が発表する音楽交流会「もみの木コンサート」が実施されている。 ・ 県立相模原高校のマンドリン部は全国的にみても高いレベルである。 ・ 上溝地区では、上溝中学校で毎年光明学園和太鼓部の演奏会を行っているほか、上溝地区社協で月一回、演芸会を開催している。 ・ 田名八幡宮における「的祭（まとまち）」や獅子舞等、伝統芸能の継承の取組がなされている。また、相模田名民家資料館において、地域住民から寄贈されたひな人形や五月人形を展示し、地域の歴史や魅力を発信している。 【意見等】 ・ 田名中学校の吹奏楽部がコンクールで金賞を獲得したが、こういった折には市民会館で演奏してもらうなどの取組があっても良い。
検証結果	公民館や学校などにおいて、音楽や芸能に関する事業が地域と連携して行われており、区民が文化芸術に親しんでいる。また、伝統芸能の継承に向けた取組、地域の歴史や魅力の発信などが進められており、魅力を感じ、誇りを持てるまちづくりが進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-3 誰もが桜や JAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（文化、スポーツ、国際化分野）

- ①文化が薫り、誇りを持てるまちづくり
- ②スポーツを楽しめる環境づくり
- ③多文化共生の推進

	区 民 の 取 組
基本計画	○スポーツ活動の支援、スポーツ施設の整備等により生涯を通じてスポーツを気軽に楽しめる環境をつくり、スポーツを通じた人々の交流の場の創出に取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 箱根駅伝で青山学院大学が優勝した際には淵野辺駅前でパレードを行っている。 ・ 市職員が、応援する機運を高めるために市役所でホームタウンチームのユニフォームを着ている。 ・ 田名地区では、公民館事業として、「田名体育祭」や「田名グラウンドゴルフ大会」が開催されている。 【意見等】 ・ 青山学院大学の優勝パレードは市外からも観覧者がきており、注目度も高いため、市のメインである市役所前通りで行うと効果的である。 ・ 町田市では、市職員が市役所外に移動する際にも F C 町田ゼルビアのユニフォームを着用しており、効果的な取組であると感じる。 ・ スタジアム問題などは地域全体の発展のために頑張ってくれる人や企業などがスポンサーになってくれれば、上手く進展するのではないかと思う。
検証結果	ホームタウンチームの応援や、公民館事業として体育祭などのスポーツ大会の実施等を通じて、スポーツを気軽に楽しめる環境づくりや、スポーツを通じた人々の交流の場が創出されている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅳ

魅力と活力にあふれ、にぎわっている

■取組の方向Ⅳ-3 誰もが桜や JAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（文化、スポーツ、国際化分野）

①文化が薫り、誇りを持てるまちづくり②スポーツを楽しめる環境づくり

③多文化共生の推進【再掲】

	区 民 の 取 組
基本計画	○異なる文化や習慣を理解し、お互いを地域の仲間として尊重し合うことで、外国人も地域づくりに参画するまちづくりに取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】※取組の方向Ⅱ-2-③の再掲 ・ 星が丘地区では千代田に拠点がある団体を通じて外国籍の人に声をかけ、ふれあいフェスティバルで模擬店を出店してもらったり、防災訓練に参加してもらっている。 ・ 横山2丁目自治会では、ごみ置き場に多言語の案内を表記している。 ・ 保育園や認定こども園では、入所する児童の中でも多文化・外国籍の子どもが増えてきている。園のルールを説明したり、連絡ノートに記載したりするときには、スマホの翻訳アプリを使って対応している。 ・ 小山地区のふるさとまつりには、米軍基地の方がお手伝いに来てくれている。また、2月に行う「英語で遊ぼう」という企画では、米軍基地の方と地域の子どもたちがバレンタインのカードを作っており、異文化への理解を深める場を設けている。 ・ 商工会議所では人材不足に対応するために経営者向けの外国人活用セミナーを行っている。 ・ 鹿沼公園では、朝方に中国出身の方が太極拳を行っており、ラジオ体操をしている住民と交流を行うなど、身近な公園などにも交流を深める場がある。 【意見等】 ・ 多文化共生については、地域特性でばらつきが生じている。地域によっては、外国籍の人と接触する機会が少ないなど、差がある。 【DXの視点における意見等】 ・ インターネットで検索すると、地域のお祭りを英語で紹介しているページなどがあり、集客につながっている。
検証結果	地域のイベント等において、外国人の方と交流する場の創出や外国の文化を知るための取組が行われているほか、日常生活における多言語対応やスマートフォンの翻訳アプリの活用などが行われており、異なる文化や習慣を理解し、お互いを地域の仲間として尊重し合うための取組が進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅴ

「豊かな環境をつくり、次世代へつないでいる」

○取組の方向Ⅴ－１ 生物多様性を保全し、都市の自然がつながるよう取り組みます

○取組の方向Ⅴ－２ 環境に配慮したライフスタイルへの転換に取り組みます

<取組状況>

- ・ 地域では、緑地などの保全活動が進められているが、担い手不足の課題がある。公園では樹名板にQRコードを設置して、植物の情報等について発信をするなどの取組が進められている。
- ・ 学校での自然を学ぶための体験活動や、地域での相模川クリーン作戦などの保全活動の実施により、自然豊かなまちづくりに向けた取組が進められている。一方で、若い世代の保全活動への参画や、活動についての効果的な情報発信が課題である。
- ・ イベントでのごみ減量等に関する啓発活動や、公民館や自治会館における太陽光発電設備の導入など、環境意識を高め、環境に配慮したライフスタイルに転換するための啓発活動が行われている。
- ・ 廃棄物品の再利用や、自治会におけるごみ削減の取組などが行われており、無駄をなくし、4Rを意識して、資源が循環するまちづくりが進められている。また、外国人住民に対しても、多言語版の「ごみ収集日一覧」を配布するなどのごみ出しルールを守る取組が進められている。



グループワーク（Cグループ）の様子

中央区の目指す姿・取組目標Ⅴ

豊かな環境をつくり、次世代へつないでいる

- 取組の方向Ⅴ-1 生物多様性を保全し、都市の自然がつながるよう取り組みます
【重点的な取り組み】（環境保全、都市緑化、生物多様性分野）

①都市の自然を次世代につなげるまちづくり

②生物多様性に配慮したまちづくり

	区 民 の 取 組
基本計画	○水辺環境や緑地など身近な都市の自然を守り育て、次世代へつなげるよう取り組みます。
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	1 自然環境の現状やその大切さを知り、個人や地域が主体的に身近なみどりや生物多様性を保全する活動に繋がられるよう、学習講座や普及啓発活動等を身近な会場で実施することを検討する。 2 自然環境に関する普及啓発の強化及び学習講座やイベントへの参加者を増やすため、自然環境に関する啓発及び学習講座等の情報を集約して発信することや、発信方法を工夫する等、情報発信に係る取組を更に推進する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 - 大野北地区では、緑地の入り口に植えた向日葵を切られたことがあったため、淵野辺東小学校と相談して子どもが描いた看板を設置したら被害がなくなった。 【意見等】 - 市民から樹木の伐採要望があるのは理解できるが、CO₂削減のためには植樹も必要である。エアコンを使うのは仕方ないが、だからこそ木を植えることが大事である。 - 各家庭で高木を維持管理するのが難しいのが課題。 - 清新地区には緑地が少ない。旧少年院跡地をどう整備するかが課題。桜の散歩道を復活させたい。 - 駅前商店街の花植え活動をしたことがあるが、水やりや担い手がいなくなり続かなかった。 - 上溝さくら公園では、樹名板にQRコード付け桜の木に設置し、桜の木の説明が読める取組を行っている。 【DXの視点における意見等】 - QRコードを公園に設置し、植物や活動情報をスマホで取得できると興味を引くこともでき、保全活動の内容を知らせることに活用できる。
検証結果	地域では、緑地などの保全活動が進められているが、担い手不足の課題がある。公園では樹名板にQRコードを設置して、植物の情報等について発信をするなどの取組が進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅴ

豊かな環境をつくり、次世代へつないでいる

■取組の方向Ⅴ-1 生物多様性を保全し、都市の自然がつながるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（環境保全、都市緑化、生物多様性分野）

①都市の自然を次世代につなげるまちづくり

②生物多様性に配慮したまちづくり

基本計画	区 民 の 取 組
第7期中央区 区民会議からの 提言内容	○生物多様性が保たれた、自然豊かなまちづくりに取り組みます。 1 自然環境の現状やその大切さを知り、個人や地域が主体的に身近なみどりや生物多様性を保全する活動に繋がられるよう、学習講座や普及啓発活動等を身近な会場で実施することを検討する。 2 自然環境に関する普及啓発の強化及び学習講座やイベントへの参加者を増やすため、自然環境に関する啓発及び学習講座等の情報を集約して発信することや、発信方法を工夫する等、情報発信に係る取組を更に推進する。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 田名地区では、小学校4年生の授業で体験活動を通じて、自然を学んでもらっている。 ・ 相模川沿いにホテルの生息地があるため、地域住民による用水路の清掃等、環境整備を行っているほか、相模川クリーン作戦に参加している。 【意見等】 ・ 水郷田名は蛍がいくらか環境に恵まれている。ただ保護活動をしているのは高齢者ばかりで若い世代がいないのが課題。 ・ 夏は暑すぎて活動が難しい。だからこそ子どもと一緒に昆虫観察や育成体験を取り入れていくといいと思う。生き物の名前が分かると興味が湧く。 ・ 活動の報告や宣伝ができていない。学校の先生たちも多分知らないかと思う。もっと工夫が必要。 ・ 道保川公園の指定管理者が、蛍の増加のため外来植物の除去やカワニナの調査等様々な活動をしている。 【DXの視点における意見等】 ・ スマホで見られる生き物マップや、ツバメの巣を地図に落とし込むような仕組みがあるといい。
検証結果	学校での自然を学ぶための体験活動や、地域での相模川クリーン作戦などの保全活動の実施により、自然豊かなまちづくりに向けた取組が進められている。一方で、若い世代の保全活動への参画や、活動についての効果的な情報発信が課題である。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅴ

豊かな環境をつくり、次世代へつないでいる

■取組の方向Ⅴ-2 環境に配慮したライフスタイルへの転換に取り組めます

【重点的な取り組み】（地球温暖化・廃棄物分野）

①環境に対する意識の向上②資源循環型の社会の推進

	区 民 の 取 組
基本計画	○環境意識を高め、環境に配慮したライフスタイルに転換するための環境学習事業や啓発活動に取り組めます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 市民桜まつりで、SDGsエリアを運営し、環境団体による啓発活動に参加した。また、4Rフェアではごみ減量に関する啓発も実施している。 ・ 清新地区と星が丘地区では、公民館で太陽光発電を導入してモニターで省エネデータを管理している。 ・ 南橋本の自治会館でも補助を受けて太陽光発電設備を導入している。 ・ 清新地区の中学校で、地域のごみ問題や騒音問題について学ぶ授業が行われた。話し合いの結果、特にタバコのポイ捨てが課題であるとの結論になった。 ・ 田名地区では、地区内道路などへの植物の植栽を行い、環境美化対策に取り組んでいる。 【意見等】 ・ 東京都や横浜市では新築住宅への太陽光発電設備の設置が義務化されており、相模原市も検討していると聞く。 ・ 太陽光発電設備を設置することで、山を削るメガソーラーがいらなくなり、環境保護に繋がる。地産地消が最も効率的である。 ・ 義務化を進める場合には、補助金制度の見直しが必要である。 【DXの視点における意見等】 ・ 意識向上の観点で、携帯などの端末を使い、太陽光発電により得た電力をデータとして可視化されることで取組の成果を実感できるのは良いと感じる。
検証結果	イベントでのごみ減量等に関する啓発活動や、公民館や自治会館における太陽光発電設備の導入など、環境意識を高め、環境に配慮したライフスタイルに転換するための啓発活動が行われている。

中央区の目指す姿・取組目標 V

豊かな環境をつくり、次世代へつないでいる

■取組の方向 V-2 環境に配慮したライフスタイルへの転換に取り組めます

【重点的な取り組み】（地球温暖化・廃棄物分野）

①環境に対する意識の向上 ②資源循環型の社会の推進

	区 民 の 取 組
基本計画	○無駄をなくし、ごみ出しルールを守るなど、4 Rを意識して、資源が循環するまちづくりに取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 上溝地区では、上溝夏祭りの飾りつけで使用し廃棄していた竹を、青竹踏みに再利用した。また、空き缶をスーパーのリサイクルボックスに、段ボールは子ども会の資源回収日にまとめて出す等、自治会のゴミ削減に取り組んだ。加えて、回覧板を紙から LINE による電子回覧に変更し、外国人住民には市ホームページにある多言語版の「ごみ収集日一覧」を配布している。 ・ ごみネットに釣りの重りを付けると、風で飛ばされたりカラスに荒らされたりしにくくなる。 ・ 田名地区では、黄色いネットをカラス対策で配布している。 【意見等】 ・ 粗大ごみを廃棄するのではなく、「ジモティー（スポット）」などを活用してリサイクルすることも重要である。 ・ ゴミ出しの有料化を検討すべき。負担に感じることで、意識改革に繋がるのではないか。 ・ ごみの分別方法が変わることについて、周知を積極的に実施する必要がある。
検証結果	廃棄物品の再利用や、自治会におけるごみ削減の取組などが行われており、無駄をなくし、4 Rを意識して、資源が循環するまちづくりが進められている。また、外国人住民に対しても、多言語版の「ごみ収集日一覧」を配布するなどのごみ出しルールを守る取組が進められている。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅵ

「わたしも、あなたも、誰もが輝いている」

○取組の方向Ⅵ－１ 全ての区民が連携・協働できるよう取り組みます

○取組の方向Ⅵ－２ 新しい発想を活かし、持続可能なまちづくりに取り組みます

<取組状況>

- ・ 地域課題の解決や地域活性化に向けた取組が行われているが、持続可能な地域運営のためには若い世代の参画が必須であるため、自治会の意義やメリットなどを効果的に発信し、参加を促す必要がある。
- ・ 区役所は地域住民に最も近い行政機関として、地域ニーズを的確に把握し、行政サービスの向上に努める必要がある。また、区役所の取組について、区民に対し効果的に情報発信をする必要がある。
- ・ 行政サービスのデジタル化の進展により、コンビニでの証明書類の取得やオンライン申請など、住民の利便性や行政サービスの向上につながっている。今後も複雑・多様化する市民ニーズや地域が抱える課題に対応するための行政サービスの提供に取り組む必要がある。
- ・ デジタル化により区民の意見を聴取しやすくなっているほか、地域においてはQRコードなどの活用により、地域の魅力やイベントについて広く区内外に積極的に情報発信をしている。また、学生に周知する際には、学校を通して周知することにより、生徒間で情報がシェアされ拡散される傾向にある。
- ・ 各地域では公共施設の再編、改修等において、地域の意見を反映する取組が進められている。一方、バリアフリーや、災害時と平常時の両方で機能するフェーズフリーの視点を取り入れた施設づくりなど、より質の高いサービスにつなげるための方策を検討する必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標VI

わたしも、あなたも、誰もが輝いている

■取組の方向VI-1 全ての区民が連携・協働できるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（参加・協働、区政（分権）分野）

①多様な人々によるまちづくり②区役所の果たすべき役割の強化

	区 民 の 取 組
基本計画	○区民一人ひとりが、それぞれの地域で活躍し、多様な力を生かして、あらゆる世代の人々とともにまちづくりを進められるよう支援します。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 田名地区では、パラリンピック競技にもなっている「ボッチャ」を通じて様々な団体との交流を図っている。 【意見等】 ・ 自治会に入りたくても、自治会への入会方法が分からない人がいる。若い世代への周知が必要である。 ・ 「自治会に入ると保育所に入りやすい」といった具体的なメリットがあれば加入者が増えるのではないかな。 ・ 現状では、若者が自治会に入るメリットを感じられないことが問題。 ・ 災害時に自治会に加入していない人を助けられないわけにはいかない。 ・ 将来の介護や地域支援を見据え、講演などを通じて若者に自治会の意義を伝え、参加を促すことが重要である。 【DXの視点における意見等】 ・ 会議の打ち合わせをリモートで行うことがある。ただし、会議をリモートで行うと顔が見えず、つながりの希薄化が懸念される。
検証結果	地域課題の解決や地域活性化に向けた取組が行われているが、持続可能な地域運営のためには若い世代の参画が必須であるため、自治会の意義やメリットなどを効果的に発信し、参加を促す必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅵ

わたしも、あなたも、誰もが輝いている

■取組の方向Ⅵ-1 全ての区民が連携・協働できるよう取り組みます

【重点的な取り組み】（参加・協働、区政（分権）分野）

①多様な人々によるまちづくり ②区役所の果たすべき役割の強化

	区 民 の 取 組
基本計画	○区民を主体としたまちづくりを支援し、地域と行政の連携によるまちづくりに取り組みます。区役所がより一層役割を果たしていくため、区役所としての機能を高めます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 区版広報や区ホームページ、SNS等で、区の魅力や最新の取組等について情報発信を行っている。 ・ FMさがみ「大好き！中央区」において、区内で活動する団体や学生などをゲストに招き、地域での活動内容を発信した。また、中央区に関わる行政情報やイベントなどの地域情報を発信している。 ・ 区制施行15周年を区民と共に祝うため、様々な記念事業を行うとともに、冠事業を募集し、関連する地域や団体の取組について情報発信を行った。 【意見等】 ・ 区役所がどのような事業を行っているか分かりにくいとの声を聞く。区民会議の活動内容や成果を広報などで積極的に発信してほしい。また、参加者同士の懇親の場があると望ましい。 ・ 会議に出てこない意見を聞く仕組みが必要。生活実態や課題を知ることで、新たなアイデアが生まれると思う。 ・ 身近な買い物の課題などを把握できれば、買い物支援の施策検討にも繋がる。 ・ 中央区役所が地域の声を受け止め、各課と連携して反映してくれるとありがたい。
検証結果	区役所は地域住民に最も近い行政機関として、地域ニーズを的確に把握し、行政サービスの向上に努める必要がある。また、区役所の取組について、区版広報やSNSなど様々な媒体を通じて情報発信が行われているが、区民に情報が届くよう、効果的かつ積極的に情報発信をする必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標VI

わたしも、あなたも、誰もが輝いている

■取組の方向VI-2 新しい発想を活かし、持続可能なまちづくりに取り組みます

【重点的な取り組み】（行政サービス、広聴広報、公共施設マネジメント分野）

①住民サービスの向上②区民意見の聴取と情報発信

③公共施設を最適な状態で維持管理していくための検討

基本計画	区 民 の 取 組
	○複雑・多様化する市民ニーズや地域が抱える課題に対応できる新しい発想を生かした行政サービスの提供に取り組みます。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ コンビニで住民票が発行できるようになった。
	【DXの視点における意見等】 ・ 電子申請により法人の事業報告や補助金申請をメールで行えるようになったなど改善が進んでいる。一方で、電子でできない手続が残っており、いまだに紙の申請書に記入しなければならないのは課題。
検証結果	行政サービスのデジタル化の進展により、コンビニでの証明書類の取得やオンライン申請など、住民の利便性や行政サービスの向上につながっている。今後も複雑・多様化する市民ニーズや地域が抱える課題に対応するための行政サービスの提供に取り組む必要がある。

中央区の目指す姿・取組目標Ⅵ

わたしも、あなたも、誰もが輝いている

■取組の方向Ⅵ-2 新しい発想を活かし、持続可能なまちづくりに取り組みます

【重点的な取り組み】（行政サービス、広聴広報、公共施設マネジメント分野）

①住民サービスの向上 ②区民意見の聴取と情報発信

③公共施設を最適な状態で維持管理していくための検討

	区 民 の 取 組
基本計画	○区民に身近な区役所として、地域の声を市政・区政へ反映することに努めるとともに、地域の魅力や取組について、広く区内外に積極的に発信します。
各地区の事例 及び意見	【取組事例】 ・ 田名地区では「田名ナビ」を実施しており、QRコードを活用して情報発信をしている。 ・ 広報さがみはらでは、QRコードが増えたことにより見やすくなった。
	【意見等】 ・ 学校内で地区のイベントを告知すると、生徒同士で情報がすぐに広がる。 ・ パブリックコメントは期間が短く、回答しづらい。団体に話し合って提出したいが難しいため、期間が長くなると嬉しい。
	【DXの視点における意見等】 ・ イベント実施時に Google フォームやQRコードを活用してアンケートを取りやすくなった。
検証結果	デジタル化により区民の意見を聴取しやすくなっているほか、地域においてはQRコードなどの活用により、地域の魅力やイベントについて広く区内外に積極的に情報発信をしている。また、学生に周知する際には、学校を通して周知することにより、生徒間で情報がシェアされ拡散される傾向にある。

中央区の目指す姿・取組目標VI

わたしも、あなたも、誰もが輝いている

■取組の方向VI-2 新しい発想を活かし、持続可能なまちづくりに取り組みます

【重点的な取り組み】（行政サービス、広聴広報、公共施設マネジメント分野）

①住民サービスの向上②区民意見の聴取と情報発信

③公共施設を最適な状態で維持管理していくための検討

基本計画	区 民 の 取 組
各地区の事例 及び意見	○社会の変化などにより、機能や配置の見直しを検討すべき公共施設については、より質の高いサービスを提供していくための方策を検討するとともに、その課題の解決を図ります。 【取組事例】 ・ 各地域では公共施設の再編、改修等において、地域の意見を反映する取組が進められている。 【意見等】 ・ 災害時と平常時に併用しながら使える施設づくりが必要である。 ・ 施設にエレベーターがないことは、今後高齢者が増える中で課題になる。
検証結果	各地域では公共施設の再編、改修等において、地域の意見を反映する取組が進められている。一方、バリアフリーや、災害時と平常時の両方で機能するフェーズフリーの視点を取り入れた施設づくりなど、より質の高いサービスにつなげるための方策を検討する必要がある。

5 審議経過等（概要）

回次・開催日等	主な内容
第1回（通算71回） 令和6年8月22日	・中央区区民会議について ・会長、副会長の選出について ・第7期までの取組と今後の審議事項について
第2回（通算72回） 令和7年2月7日	・視察 ・勉強会
第3回（通算73回） 令和7年5月23日	・中央区基本計画の取組状況の検証について
第4回（通算74回） 令和7年8月26日	・中央区基本計画の取組状況の検証について ※小委員会の開催のみ
第5回（通算75回） 令和7年10月29日	・中央区基本計画の取組状況の検証について ※小委員会の開催のみ
第6回（通算76回） 令和7年12月23日	・中央区基本計画の取組状況の検証について ※小委員会の開催
第7回（通算77回） 令和8年3月26日	・中央区基本計画の取組状況の検証について
第8回（通算78回） 令和8年5月27日	・第8期相模原市中央区区民会議 活動報告書（案）について

6 第8期区民会議委員名簿

分 野	選出母体等	氏 名	検討 グループ	備 考
まちづくり 会議	小山地区まちづくり会議	入 谷 利 郎	B	
	清新地区まちづくり会議	丹 波 晴 道	C	
	横山地区まちづくり会議	末 永 暁 子	A	第1～2回
		吉 田 貴 亮	A	第3～8回
	中央地区まちづくり会議	鈴 木 泰 信	B	
	星が丘地区まちづくり会議	八 木 鉄 雄	A	
	光が丘地区まちづくり会議	割 柏 秀 規	A	
	大野北地区まちづくり会議	山 口 信 郎	C	副会長
	田名地区まちづくり会議	代 田 修	C	
	上溝地区まちづくり会議	小 林 充 明	B	
公益的 活動団体	相模原市P T A連絡協議会	藤 田 寛 之	A	
	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	清 水 洋 子	A	
	相模原市公民館連絡協議会	星 清 次	B	
	相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会	高 橋 年 廣	A	
	相模原市民生委員児童委員協議会	桑水流 良 光	B	
	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	中牟田 好 江	A	
	一般社団法人相模原市医師会	原 田 克 也	A	
	相模原交通安全協会	田加井 政 勇	B	
	公益社団法人相模原市観光協会	水 谷 好 男	B	
	相模原商工会議所	中 村 太 郎	B	
	公益社団法人相模原青年会議所	大 井 駿 平	C	
	特定非営利活動法人 a n d A d v a n c e	斎 藤 奈 美	C	
学識 経験者	青山学院大学	飯 島 泰 裕		会長
区内の 住民	公募委員	浅 野 由 佳	A	
	公募委員	藤 澤 佳 代	B	
	公募委員	山 本 あづさ	C	

第 8 期

相模原市中央区区民会議 活動報告書

発 行 令和 8 年 7 月

相模原市中央区区民会議

編 集 相模原市中央区役所区政策課

相模原市中央区中央 2-1 1-1 5

電 話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 0 2

